

ニホンカモシカとツキノワグマの分布の推移

新井一司・久保田将之

(緑化森林科)

【要 約】ニホンカモシカとツキノワグマは、いずれも 2013 年時点で多摩の森林の全域に分布していなかったが、2019 年には、多摩地域の南東部まで拡大しており、今後、多摩の森林全域において出没し、林業被害を及ぼす可能性は極めて高い。

【目 的】

多摩地域には、ニホンジカ以外にニホンカモシカとツキノワグマが生息しており、ニホンカモシカはニホンジカと同様、植栽したスギ、ヒノキ、広葉樹などの苗木の摂食被害、ツキノワグマは成木の幹へ樹皮剥ぎ被害を及ぼす。しかし、これらの野生動物が多摩の森林のどこまで分布を広げているかについては、不明である。そこで、再造林地に配置したセンサーカメラの画像を用いて、これらの実態を明らかにし、被害対策に活用する。

【方 法】

センサーカメラは、HC500 (Reconyx 製) を用い、奥多摩町 6 林地、檜原村 2 林地、青梅市 2 林地、八王子市 1 林地、日の出町 1 林地の再造林地など計 12 林地において、各 2～4 台配置した。2013 年、2016 年、2019 年について各々 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間、継続して撮影された林地の画像データについて、ニホンカモシカとツキノワグマの 1 年間の延べ撮影頭数を求め、その分布図を作成した。

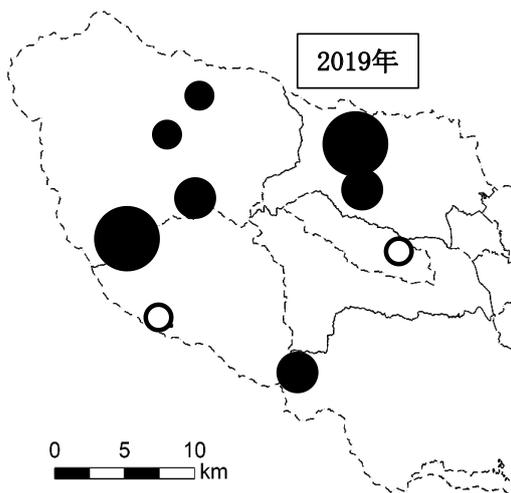
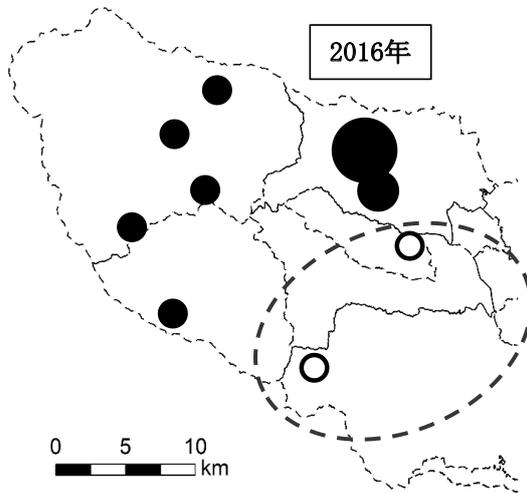
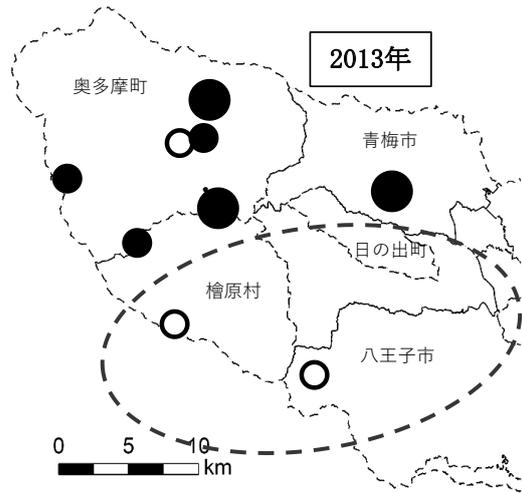
【成果の概要】

1. ニホンカモシカの分布の推移を図 1 に示した。2013 年は、檜原村、八王子市といった多摩の森林の南部においてニホンカモシカは 1 頭も撮影されなかった。その後、1 頭も撮影されなかったエリアは狭まり、2019 年には、南東部の八王子市までニホンカモシカの分布は拡大した。これまで、八王子市などの多摩の森林の南東部の植栽木被害は、ニホンジカによるものと思われていたが、今後はニホンカモシカの被害も混在するため、加害獣の判定には注意を要する。
2. ツキノワグマの分布は、図 2 に示したように 2013 年は、多摩の森林のほぼ半分の南東部の広域で 1 頭も撮影されなかった。その後、ニホンカモシカと同様、撮影 0 頭のエリアは狭まり、2019 年には、日の出町の 1 林地のみとなった。ツキノワグマの延べ撮影頭数は、ニホンジカの 1/50 以下と少ないが、ツキノワグマは 1 頭でも 1 夜にして多数の成木の樹皮を剥ぐため、林業としての被害は甚大なものとなる。年による変動があると考えられるが、今後、多摩の森林の全域でクマ剥ぎ被害が生じると予測される。
3. ニホンジカの場合、2004 年時点でその分布は、奥多摩町と青梅市西部、檜原村の北西部のみに限られていた。その後、急速に分布を広げ、2011 年には、八王子市まで分布が拡大し、その後分布域が縮小する傾向はみられていない。ニホンジカと同様、ニホンカモシカとツキノワグマもこれからの数年間で拡大した分布域の縮小はないと推測される。

【残された課題・成果の活用・留意点】

2020 年も継続して撮影しており、2020 年の結果を加味して、最終報告とする。

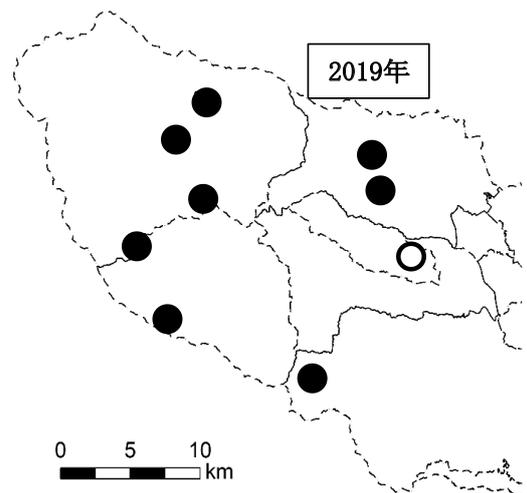
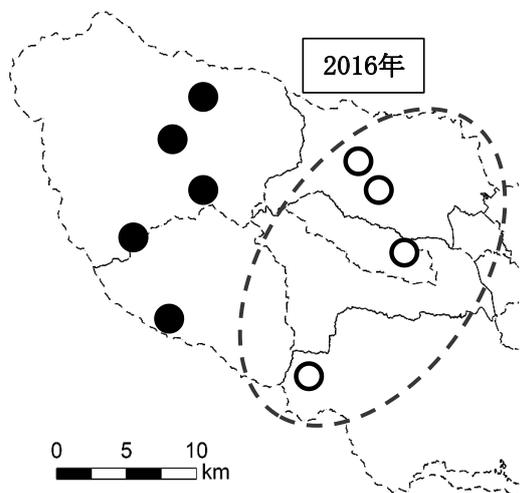
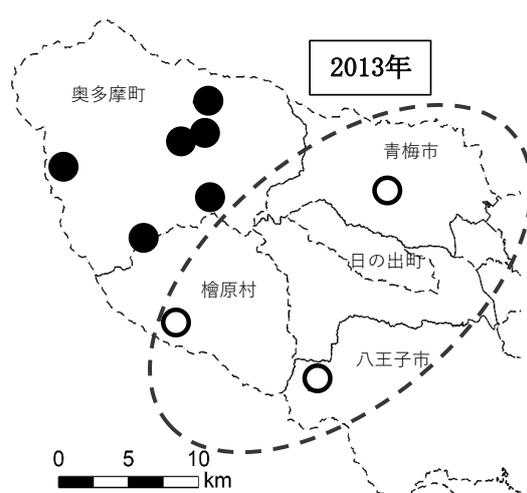
ニホンカモシカ



凡例
 延べ撮影頭数 ○: 0.0 ●: 0.1~9.9
 ●: 10.0~19.9 ●: 20.0~頭/年

図1 ニホンカモシカの分布の推移

ツキノワグマ



凡例
 延べ撮影頭数 ○: 0.0 ●: 0.1~9.9頭/年

図2 ツキノワグマの分布の推移